

- 「より高度な臨床」
- 「より深い研究」
- 「より広い教育」
- 「より積極的な保健活動」

の四つの柱を職員が共有し、
地域の人々の生命と健康を守ります。

Vol.13

2014年3月発行



横手城展望台と「かまくら」（2月14日撮影）

CONTENTS

- 院長挨拶…………… ②
- CT 紹介（放射線科）…………… ③
- 新任医師の紹介…………… ③
- 外来受付時間のご案内…………… ④
- 研修医の紹介…………… ④
- 3月3日は「耳の日」…………… ④

当院は、日本医療機能評価機構 Ver5.0 の認定施設です。また、当院の健診センターは、日本人間ドック学会の機能評価認定施設です。



病院住所／〒013-8610 横手市前郷字八ツ口3番1
TEL／0182-32-5121 (代) FAX／0182-33-3200
●HP : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>



院長 **平山 克**

当院で活用している 「地下水活用システム」について

今回は、タイトルにある「地下水活用システム」について紹介したいと思います。

この名前をご存じの方や聞き及んだことのある方もおられると思いますが、初めて耳にする方も少なくないかと思います。平鹿総合病院では平成24年4月からこのシステムを実際に運用し、活用しています。

この「地下水活用システム」とは“読んで字の如し”であり、簡単に言えば、地下水（井水）をポンプで汲み上げて、それを浄水装置を通して飲用可能なレベルまで“ろ過”して水道水（上水）と混合して使用する仕組みのことです。

本システムの利点としては、何と言っても病院独自で飲料水の確保が可能になる事が第一に挙げられますが、水道料金（上下水道料金）の大幅な削減を図ることが出来る点も魅力です。

大量の水道水の使用を必須とする血液透析室を始めとして医療現場には水道水は無くてはならないものであり、水道水の供給停止は取りも直さず医療機能、病院機能の停止を意味します。繰り返しになりますが、本システムの活用によって、「非常事態においても病院の水道水の確保が可能になる」というリスク対応が可能になることが最大のメリットであると考えています。

平成24年度の使用実績では、本システムによる地下水使用比率は77.2%であり、今年度は90%を越える比率で活用されています。

このシステムは当院敷地内の、エネルギー棟の北側で平鹿調剤薬局中央店と隣り合う場所に設置してあります（写真）。

平鹿総合病院の上水道使用量は年間で120,972 m³、1日当たり平均使用量は331 m³となりますが（平成22年度実績）、貯水設備は受水槽が264 m³、高架水が50 m³、計314 m³です。断水になった場合には、横手市水道課より積載量1.5 m³の給水車によってピストン輸送で給水を頂くこととなりますが、通常の使用量を想定すれば1日も持たない計算です。勿論、これは、当院に限った状況ではありません。多くの病院も同様の貯水状況であると理解しています（例えば、病床数500床の茨城県の水戸医療センターの場合、1日使用水道水が270 m³で受水槽容量は200 m³です）。

さらに、停電時は当院の自家発電が稼働しますが、自家発電機は水冷式であるため、水が供給されなければ電力の供給も停止して病院機能が停止してしまいます。

この「地下水活用システム」は、こうした諸リスクへの有効な対策になり得ている、ということです。

さらに、有事の際、例えば、地震などの災害で病院周辺地域の家庭が断水になった場合には、このシステムから病院周辺の市民の皆さんに飲料水を供給する為の蛇口も備え付けて有ります。もちろん、システムの本来目的からもキャパシティにはおのずと限界があるのは当然ですけれども…。

総体として、この「地下水活用システム」は、災害拠点病院としての平鹿総合病院のライフラインの確保に貢献するシステムである、と考えています。



地下水供給設備



設備全景

【最新CT紹介】 放射線科 後藤 伸也

当院では2013年6月より、横手市そして秋田県からの補助により、ドイツ シーメンス社製2管球CT (SOMATOM Definition Flash) を導入しましたので、その特徴についてご紹介致します。

この装置は、全世界で500台が稼働しており、日本でも60台が稼働しております。秋田県では、2013年1月に設置されました由利組合総合病院に次いで2番目の機種となります。2管球搭載のCTと言う事で、従来にはない冷却装置を備えています。

CTとは放射線を用いて人体の中をいろいろな方向（水平断・冠状断・矢状断）から見ることのできる装置です。放射線を使用するため被ばくが気になると思いますが、従来のCT装置と比べて画質を損なわずに被ばく線量を低減しています。また高速撮影（1秒間に46cmの高速撮影）にも対応しており、胸部の検査においては息止めの難しい患者さんに対しては、息止めなしで撮影が出来ます。この高速撮影は特に心臓の血管撮影において威力を発揮します。従来の当院CT装置では心臓の血管を見ることは難しかったのですが、最短でわずか0.25秒（シャッタースピード0.075秒）で心臓の血管撮影が可能となっています。狭心症や心筋梗塞治療後の評価には大変有効な検査です。ただし、これには心拍数などの条件がありますので、誰にでも当てはまるわけではありません。その他にじっとしているのが難しい子どもさんの撮影に関しても、鎮静剤といったお薬を使わずに撮影することが出来る場合もあります。それから、2つの異なるX線を利用して、結石の組織分解や尿酸の沈着、腱の可視化をする事が出来ます。

またCTと同時期に導入したワークステーションを使いCTで撮影した大量のデータから様々な画像を作成することが出来るようになり、診断の一助となっています。

今回の新しいCTの導入により患者さんにやさしい検査が可能となります。われわれ放射線科のスタッフも、新しい技術を身につけ患者さんに還元できるよう日々努力をしていきたいと思っています。



スタッフ



CT装置



胸部大動脈画像



心臓血管画像

新任医師の紹介

(平成25年10月以降に赴任)



小児科 科長
さとう ようこ
佐藤 陽子



外科 医長
いわの まさし
洞口 正志



脳神経外科 医長
おんどう るい
近藤 類



小児科 医員
いしかわ さえ
石川 小枝



小児科 医員
いとう たかひろ
伊藤 卓洋

診察受付時間のご案内

[平成 26 年 3 月 1 日現在]

※自動再来受付機は午前 6 時 30 分から受付開始します。 ※新患受付は午前 8 時から受付開始します。

ブロック	診療科	受付曜日	受付時間	備考
1階 Aブロック	消化器・糖尿病内科	月～金	午前11時まで	◎糖尿病外来（火・木・金曜日）◎肝臓外来（毎週火曜日） ◎炎症性腸疾患外来（水・金曜日）
	外科	月～金	午前11時まで	◎小児外科（毎週木曜日午前）※要予約 ◎ストーマ外来 ※完全予約制
	乳腺外科	月～金	午前11時まで	※緊急の場合を除き、医師の診察は完全予約制です。
	整形外科	月～水・金	午前11時まで	※木曜日の新患は紹介のみです。
		木	午前10時まで	
心療センター	火・水・金	午前11時まで	※新患の方はあらかじめ水曜日又は金曜日に予約をお願いします。 （お電話でも結構です。）	
1階 Bブロック	呼吸器内科	月～金	午前11時まで	◎在宅酸素外来（毎週火曜日13:30～14:30） ◎C P A P 外来（毎週木曜日13:00～14:30）※完全予約制 ◎禁煙外来（第2・第4木曜日16:00～17:00）※正面受付で予約
	循環器内科	月～金	午前11時まで	◎ペースメーカークリニック外来（毎週水曜日14:00～15:00） ※要予約
	血液内科	月～金	午前11時まで	◎腎臓外来 月曜日（隔週）、水曜日（毎週） ※完全予約制
	神経内科	火	午前11時まで	
		水	午後13～15時	
	脳神経外科	月～金	午前11時まで（木）予約制	
心臓血管外科	木・金	午前11時まで		
2階 Cブロック	皮膚科	月・水	午前10時まで	◎心臓外来（第1・第3・第5金曜日）※完全予約制 ◎神経外来（第4水曜日）※完全予約制 ◎内分泌外来（第2・第4金曜日）※完全予約制 ◎腎臓外来（第1金曜日）※完全予約制 ◎血液外来（第4金曜日）※完全予約制 ※特殊外来受診希望の場合は必ず小児科外来にご連絡ください。
	小児科	月～金	午前11時まで	
		◎予防接種（毎週火・水曜日13:00～15:00） ※ただし、第4水曜日は行っておりません。 ◎慢性疾患（毎週火曜日13:00～15:00） ◎乳児検診（毎週木曜日13:00～15:00）		
		産婦人科	月・火・木・金	午前11時まで
	形成外科	月・火・木	午後の15時まで（診療は午後の13時30分から）	◎顎顔面・唇顎口蓋裂外来（第1金曜日）
水		予約制		
金		午前10時まで（午前に診療します）	※金曜日午前診療です。金曜日以外の診療は午後の13時30分からです。	
2階 Dブロック	耳鼻咽喉科	月・水・木	午前11時まで	◎学童外来（毎週木曜日、受付は午後15時まで）診療は午後15時からです。 ※火・金曜日の診療は午後の13時30分からです。
		火・金	午後12時～14時30分	
	眼科	月	午前は9時30分まで・午後は12時～14時30分	◎手術日（毎週水曜日）
		火・水	予約のみ	
		木・金	午前9時30分まで	
泌尿器科	月～金	午前11時まで	◎ストーマ外来 ※完全予約	
歯科	月～金	午前11時まで		

研修医の紹介

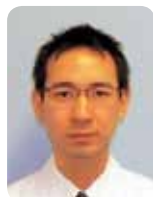
（平成25年4月に赴任）



医員研修医
さかい はやひと
坂井 勇仁



医員研修医
みやがわ あつし
宮川 敦志



医員研修医
こんどう たつお
近藤 立雄

3月3日は「耳の日」 突発性難聴について

浜崎あゆみさんや坂本龍一さん、スガシカオさんなど、ここ最近、歌手や芸能人が発症したことで話題となった突発性難聴。「音」に関係する仕事をしている人がなりやすい・・・と思われがちですが、実は誰でもかかる可能性がある病気です。少し古いデータですが、2001年の調査結果では年間の推定患者数は3万5,000人（人口100万人あたり275人）、その数は年々増加傾向にあります。

突発性難聴は明確な原因もなく、突然耳が聞こえなくなる病気です。ほとんどの場合、片側だけ起こり、副症状としては「耳鳴り」「耳閉塞感」「めまい」「吐き気」などがあります。発症から2週間を経過すると治療効果が低くなるため、「おかしいな？」と感じたらそのまま放置せず、すぐに専門医に相談しましょう。